

第2回県立中部病院将来構想検討部会

1 日 時 令和5年9月12日(火) 14:00-16:00

2 場 所 県庁11階 第1・2会議室

3 議事次第

(1) 県立中部病院南病棟の対応方針の検討について

(2) 県立中部病院が担うべき役割・医療機能について

4 議事要旨

(1) 県立中部病院南病棟の対応方針の検討について

県立中部病院が検討した南病棟の現地建替案に基づき、喫緊の課題である南病棟のほか、本館等の狭隘化への対応、病院経営への負担も考慮し、現地展開の実現可能性及び役割・医療機能等の検討を行うこと、これが困難な場合に移転建替を検討することを説明し、この方針で進めることとなった。また、以下の意見があった。

- ・工事期間中であっても、県立中部病院の医療機能を停止しないようにすべきである。
- ・職員駐車場を現敷地内で確保できないため、これも考慮する必要がある。
- ・事務局案が最も可能性が高いと考えるが、建築の目線、現場の目線それぞれの意見を踏まえながら進める必要がある。
- ・移転スキームを提示してほしい。

(2) 県立中部病院が担うべき役割・医療機能について

県立中部病院が担うべき役割・医療機能について、二回に分けて議論することとし、今回は離島・へき地医療、救急医療、災害医療などの議論を行った。また、以下の意見があった。

- ・県立中部病院は総合医、専門医の両方を育成する必要がある。
- ・県立中部病院が離島・へき地医療の役割を担う必要があると考える一方で、医師に選ばれる病院となるために、専門性を持った医師の育成も必要となる。
- ・高齢化の進展に伴い救急搬送件数の増加が見込まれることから、これに対応する必要がある。3回検討部会にて報告する。
- ・脳神経外科についてはソフト・ハードともに整備する必要がある。
- ・開業医が中心となって在宅医療を行うと考えるが、県立中部病院は急性期疾患を発症した在宅患者に対する機能を担う必要がある。
- ・急性期病院の退院促進といった観点からも、在宅医療の機能は必要である。
- ・在宅診療を行うクリニックが少ない背景を考慮しつつ、急性期病院として在宅医療の支援を検討する必要がある。

第2回 県立中部病院将来構想検討委員会部会出席者

氏名	役職	備考
玉城 和光	中部病院 院長	対面形式
諸見里 真	病院事業局 病院事業統括監	対面形式
中矢代 真美	病院事業局病院事業企画課 医療企画監	対面形式
徳嶺 恵美	病院事業局病院事業企画課 看護企画監	対面形式
天願 俊穂	中部病院 副院長（医師）	対面形式
本仲 寛美	中部病院 副院長（看護師）	対面形式
仲本 利江	土木建築部施設建築課 課長	対面形式
古堅 宗一郎	保健医療部医療政策課 課長	対面形式
宮里 達也	沖縄県医師会 副会長	対面形式
梅村 武寛	琉球大学病院 副院長	WEB形式
知花 敬	中部地区医師会 事務局長	対面形式
吉田 智枝美	沖縄県看護協会 常任理事	対面形式
座喜味 保	中部市町村会 事務局長	対面形式
武岡 光明	沖縄県建築士事務所協会 会長	対面形式